長渕『ふるさとに乾杯』

紅白中継地決定

完全非公開

大みそかの第62回NHK紅白歌合戦で唯一、寄目本大震災の被災地から歌う長渕剛（55）の中継地が、宮城県石巻市に決定したことが分れ、明らかになった。長渕は、震災直後の4月16日に同市内を訪れ被災者や自衛隊を激励。6月には同市の日和山公園で地元小学生らとライブを行なう支援活動を行ってきた。安全上の理由などで、本番は完全非公開で行われるが、石巻市だけでなく、被災地域すべてを魂する歌唱になる。

12月上旬に被災地からの歌唱を前提に、長渕の8年ぶり63回目の紅白出場が決まると、NHK側と長渕サイドで中継地の選定の作業が行われてきた。その結果、長渕と関わり深い石巻市が候補となり、このほど正式決定した。

長渕は震災直後の4月16日に、いち早く石巻市を訪れ、避難所となっていた石巻高を慰問、救援拠点だった石巻総合運動公園では、不眠不休で活動する自衛隊員を激励した。6月26日には同市内の日和山公園で、石巻小の児童100人や地域住民ら約3千人を前に、ギターを弾き語りをしてTBS、鎮魂と再望の歌「JAPAN AGAIN for JAPAN」を歌唱した。

今月中旬に宮城県石巻市を訪れていた長渕剛

N系大合唱」この模様はBHKの音楽番組、SONGSで放送され、これらの活動が、同市を中継地にすることに大きく影響した。

12月中旬に、石巻市が中継地に内定すると、長渕本人が同市を訪れ、亀山紘市長と会談を行った。長渕は「山縁があって何度か足を運ばせていただいて、そして快く迎えれてくださって、僕の中にはふるさとに匹敵するような感覚が芽生えている」と話した。亀山市長は、「（日和山公園では）子供たちと一緒に歌っていただき、未来を担う子供たちに大勇気を与えていただいた。本当に、歌の力はすごい思った。正式に決まれば、もちろん全面協力すると話した。

NHK側が「安全の理由などにより、この中継放送は完全非公開となるため、撮影地への立ち入りは一切できない」としているまため、これぞ倒壊寸前の豪屋など、が今も生々し残る地から、照明などのシンプルな演出で新曲、1つ、を披露する。長渕は「無さに悔しさやさまざまな思いを乗せて、『ふるさとに乾杯』を歌いたい」と、亀山市長は、長渕の歌は、石巻だけではなく、被災地域の人々に呼びかけてくださるから、みんなに呼びかけてくださるよう、と思っています」と話した。

亀山紘石巻市長（左）と会見した長渕

震災直後から慰問 市長「全面協力」

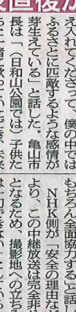
静かな曲だから伝わる怒り

毎週文春記者 芸能ゴシップ 隔週で月～金掲載

長渕剛を長い間、取材している。何度もインタビューしてきた。そのたびに熱い長渕を見てきたが、今回ほど、戦う姿勢を感じたことはなかった。大震災を本当に憂いている。震災直後に立ち上がった彼を、予定外に歌い上げた。

長渕は、災地向けのラジオ番組でおそべしながら被災者に語りかけた。

6月の日和山公園でのライブでは、土砂降りの雨の中、歌い続けた。雨でもとどまってくれた人々に感謝して「こんぼ」な天ヒット曲の数々。震災を本当に憂いて、「ふるさとに乾杯」を歌唱した。



今月中旬、石巻市で静かな海を見つめる長渕

12月中旬に、中継候補地の石巻市を訪れた長渕は、しゃがみ込んで大地を見つめ、堤防に付け上がって、街を、人々をその為込んだ海

元気で、また会えてよかったと、肩に手を回し語りかけた。

紅白で披露するひとつに「家族が、人間が、日本が、世界がひとつになならなければ、という思いも込められる。静かな歌である。だからこそ長渕の、内在する怒りが伝える、間違いない、今年の紅白を象徴する中継になるだろう。